

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は入居者さんの意思(想い)を大切にしています。木かげに入居して本当に良かったと入居者さんやご家族さんが思って頂けるホームを目指しています。また地域に木かげを積極的にアピールしています。
私たちの理念は「笑う門には福来る」です。

法人の理念は「笑う門には福来る」として、ホーム内に掲示し、職員のTシャツやジャージにプリントして周知している。居室掃除、食事の下拵え、テーブル拭きなどを職員の見守りのうえ利用者がおこなっており、自立支援につなげている。残存機能の活用を促すよい取り組みだと思われる。医療体制はホーム協力医が月2回訪問診療しているが、専門医なども訪問診療として受診が可能である。ターミナルケアに対応しており、職員は看取り経験が豊富である。ホームから家族への情報提供もこまめにおこなわれている。コロナ禍以前は地域との交流を盛んにおこなっており、地域の俳句の会やクリスマス会にも参加していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(笑う門には福来る)を、管理者と全職員で共有し、サービスを提供しています。	法人の理念は「笑う門には福来る」としてホーム内に掲示し、職員のTシャツやジャージにもプリントして周知している。管理者は、職員に「ありがとう」「ゆっくりね」と声掛けをして笑顔を引き出すようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり、対面での地域交流は控えました。しかしオンライン形式で、地域ボランティアの皆様へと繋がっています。	コロナ禍で制限しているが、地域の俳句の会やクリスマス会に参加している。中学生の職場体験なども受け入れていた。現在はボランティアがリモート配信で歌、落語、手品などを披露してくれたり、コンサートなども鑑賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に管理者が地域住民などの対応を行い、認知症の理解を深めています。しかしながら今年度は控えました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響があり、会議を開催することはなく、ご意見・ご要望を聞き、お返事をする形をとりました。感染源を木かげに入れないよう努力して下さいと、メンバーから多くのご意見を頂きました。	今年度は書面で開催している。メンバーは家族代表、民生委員、近隣住民、社会福祉協議会担当者、地域包括支援センターである。入居者状況、職員状況、身体拘束廃止権利擁護委員会報告などを行っている。参加者には意見を求めて、ホームからの回答も記載している。	今後は代表以外の家族にも参加を呼び掛けたり、議事録を送付することもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問・質問があれば、都度行政に聞ける環境は整っています。問題ありません。	区の担当課とは日頃からやり取りをしており、何かあれば相談に乗ってってもらっている。地域包括支援センターとは気軽に訪ねていける関係となっている。いずれも良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会の開催はしています。玄関の施錠や入居者さんの行動を職員都合で遮ることなどについても、身体拘束になり得ると周知されています。	「身体拘束廃止に関する指針」を策定し、3か月に1回の身体拘束廃止権利擁護委員会、年2回の研修会を実施している。議事録は職員全員に回覧している。現在、身体拘束を必要とする利用者はいないが、万が一を踏まえてフローチャートの作成を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に虐待防止につきましても、定期的な勉強会を行い、全職員で学んでいます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より文章にて配布。また会議にて、口頭で説明をしています。人として当たり前の権利について再認識をすることが出来ています。(個人の尊厳・敬意を学びました)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームに見学時から、細かな質問を伺っています。どの様なことで不安や疑問があるか尋ねています。分からないことが有れば何でもお話し下さいと伝えています。十分な説明と同意は得られていると考えます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会の際などに、ご意見やご要望を伺ってはいましたが、今年度も面会制限が有りお話しする機会のないご家族さんとは、お手紙にて都度何かございましたらと、お伝えしています。	日常的に電話や来訪時に意見を聞いている。また、書面でも意見を受け付けている。意見を反映して、駐車場の入り口の改修などをおこなった。現在は面会に関する意見が多く、感染状況などを見て対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員から直接意見を聞き、その後代表に伝え検討し決定事項を全職員に伝えています。	ミーティング等で意見を聞く機会を設ける他、職員と管理者は日常的に話をすることができている。職員の意見から、タブレットの購入やコロナ対応支給品の職員への配布状況の確認などをした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は職員の賃金を常に気に掛けてくれています。職場環境をより良くしようと努力しています。(近隣介護職員の賃金を常に把握し、努力しています)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるよう環境を整えてくれています。昨年同様、外部研修など新型コロナウイルスの影響で研修への参加はほぼない状態でした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に電話にて他事業所の方と情報交換を行いました。(新型コロナウイルス関係の話が多いです)		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者さんに寄り添い傾聴する。ご自分で意思(想い)を訴えることが出来ない方には職員は過去の生活歴を活用し、察することに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階から、ご意見やご要望を聞いています。契約して頂いたご家族さんには入居に当たり、より具体的に生活をイメージして頂きます。入居に当たり、メリット・デメリットをお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	些細な事でも話しやすい環境を作りだし、ご意見・ご要望を聞いています。その後、生活全体をイメージし、必要な支援に結びつけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達は入居者さんの生活の場に踏み込んで、仕事していることを常に忘れず、どんな時も入居者さんの意思(想い)を大切にしています。残存能力を活かし共に生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会制限があり、木かげで出来る方法をお伝えし、ご家族さんとの信頼関係を大切にされています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は控えて頂いています。自由にご面会は出来ませんが、中庭からのご面会やライン電話にての面会は出来ます。または電話にてのお話などをして頂き、途切れないように気を付けています。	コロナ禍以前は、お墓参りや外食など自由に外出していた。現在は電話の取り次ぎや手紙のやり取りの支援などを行っている。人数や時間を制限したうえで、広い中庭での面会や玄関ソファでの面会ができるようにしている。オンライン面会も可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士が関わりを保てるよう余暇の時間は出来る限り、輪になって団欒をしています。(体操やゲームなど)		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族さんたち数人との関わりを持っています。世間話や入居されていた当時のお話をします。(木かげに訪問・電話など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話をさせて頂き伺っています。、また定期的に勉強会を開催し全職員で学んでいます。	普段の会話や表情などから、思いの把握に努めている。把握した内容は個別記録に記載し、職員間で共有している。職員は、利用者の笑顔が見られるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居確定後、早めに情報を頂き、入居者さんが入居される前にはある程度把握できています。適切な支援に結びつけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご希望に沿った支援を心掛けています。情報は記録に残し全職員で把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんやご家族さんから定期的にご意見やご要望をお聞きしています。また何かあれば、ご家族さんとの小まめに連絡を取っています。些細な事でも、お話し下さいと伝えていきます。	利用者家族には、職員が月3回連絡をとり、意見を聞いている。個別記録を参考に、職員の意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。基本6か月に1回見直しをしているが、状況の変化に応じてその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子はデータベースに残し、重要なことは入居者さんファイルの申し送り用紙に残しています。職員間で都度都度話あっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度対応しています。出来る限り多くの職員とご家族さん・入居者さんで話し合い取り決めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はインターネットを活用し、地域資源の活用しています。(外部者との交流も増えています。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の為、不安なことが有れば、24時間365日医療従事者との連携が取れています。ご家族さんや職員も安心しています。	往診医が月2回訪問して利用者の健康管理をしている。皮膚科、整形外科、歯科などの専門医の受診が必要な場合は、往診医と連携して専門医の往診を受けることができるように支援している。訪問看護師は利用者の希望に応じて、看取り期などは個別に契約できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師や主治医と繋がるため、ご家族さんや職員も安心しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、入居者さんの情報を速やかに提出しています。また何かあれば双方で連絡のやり取りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご見学時からお話しはさせて頂いています。いよいよの時、都度ご家族さんと話し合っています。	利用開始時に、重度化した場合にどうしたいか希望を聞きとり、状態が変化した時には、医師、看護師から家族に説明している。看取り対応の場合は、看取り介護計画を作成して支援している。今年度1件の実績がある。	看取り指針、看取りについての同意書は特になく状況である。看取り介護についての書類関係の見直しがあってもよいと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し常に備えています。互いに教え合っています。(心肺蘇生など)急変時の流れを学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。大規模災害(停電)に備え、非常用発電機の使い方を全職員で学んでいます。近隣にもお伝えしています。	消火訓練、夜間、日中を想定した避難訓練を年2回実施している。非常用発電機の操作訓練も同時におこなっている。現在はコロナ禍で制限しているが、近隣住民との訓練も実施出来る体制にある。備蓄食料、介護用品、水などは10日分の備えがあり、一覧表を作成して、期限切れの管理も出来ている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんに対し常に労いの言葉を心掛けています。敬う気持ちを大切にしています。しかしながら、私たち都合で出来ていない場合もあります。	個人の尊厳を大切にすることを、職員間で共有している。申し送り時やミーティングで、不適切と思われる事例については話し合い、改善に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	返事をしやすい工夫しています。(はい・いいえ・良い・嫌だ)など。どんな時もご本人の立場となり察するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、お話を伺っています。出来る限り、その方のペースで過ぎて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの習慣を大切に、ご本人のご要望に近づけるよう努力しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(盛り付け)など、可能な限りお手伝いして頂いています。食後の後片付けや洗い物なども無理のない範囲でお願いしています。	利用者も一緒に、調理の準備、盛り付け、テーブル拭きをおこなっている。献立は、希望により変更することもある。家族から釣った魚が届くこともあり、調理して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは管理栄養士に委託しています。栄養バランスは問題ありません。食事摂取量の把握をし、記録に残しています。チェック表を見ながら不足がちな方は補助食品などで補っています。(水分も同様です)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず行っています。ご自分で出来ることは出来る限りご自分で行ってあります。(出来ないことをさりげなく支援しています)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄用品を選び支援しています。ご本人の能力は可能な限り活用して頂き、少しでも自立に向けた支援をしています。	個別に、排泄のタイミングを把握して記録し、職員間で共有している。声掛けや誘導は、プライバシーを損ねないように配慮し、自立に繋げるように支援している。リハビリパンツから布パンツに移した人も複数いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食べ物を食べて頂き、また乳製品なども飲んだりされています。日中は活動量を増やし、水分を多めに摂取して頂き、便秘予防に努めています。(訪問診療時、相談します)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さん同士で時間が重なる場合や職員が手薄な時間などは時間の変更をお願いしています。出来る限り、ご希望に添えるよう心掛けています。	週2回の入浴を基本としているが、体調や気分に合わせて無理なく入浴できるようにしている。ゆず湯や、菖蒲湯、入浴剤で楽しむこともある。個別に好みのシャンプーを使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の管理を徹底しています。(夏は涼しく・冬場は暖かく) 眠れない入居者さんは眠くなるまで、リビングに居て頂き、温かい飲み物などを飲んで頂きます。寄り添う時間を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんの個人ファイルに薬の説明書を閉じ、いつでも把握できます。また不安なことが有れば、薬剤師に都度確認が取れます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんのやる気(意欲)を大切にしています。諦めてしまう事でも職員がさり気なくサポートしています。廊下や中庭の散歩・歩行訓練などをお手伝いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルス感染の影響で、ほぼ出来てはいません。	感染予防のため外出は制限しているが、室内での活動に力を入れている。口腔体操やみんなで歌いながら体操をするなどの工夫をしている。また、ホームの広い中庭で、外気浴を兼ねてお茶を楽しむなど、外気に触れる機会を持つようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	木かげでは基本、手持ち現金は持たず、預かり請求となっておりますが、数名の入居者さんをご自分で管理されています。(入居時に、ご本人・ご家族さんと協議の上決めました)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ライン電話や電話は常に掛けたりできます。また掛かって来ます。手紙は頂くだけで返事は返せていません。(しかし、事業所の年賀状は入居者さんに書いていただいています)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な室温や音・光などに十分気を配っています。居心地の良い環境・空間を作れていると思います。	リビングは明るく、広く、ゆっくり過ごせるようになっている。大型の空気清浄機をユニット毎に設置して、加湿器も置き、温度、湿度管理をしている。季節の花を飾るなど、季節感も大切にしている。訪問当日は、利用者がソファで寛いでいる姿も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に入居者さんの表情や行動に気を配り支援しています。お一人になる事がないように職員が会話を繋いだりしています。ご自分で好きな場所で過して頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や親しみのある物などは大変少ないと思われます。	馴染みの写真、タンス、仏壇など、思い思いの品を持ってきて、自分らしい部屋にしている。ご主人の写真の前に花を飾る人もいるなど、穏やかに過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は出来る限り、手すりを多く取り付けました。廊下の手すりの高さは少し低めで取り付けられています。ご本人の残存能力を活用できるようにしています。中庭にも手すりを設置してありますので、ご自分で一周も出来ます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと